

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・Ⅰ 美的概念は特定の社会や文化によって規定されるという観点から、「日本の美意識」という概念について批判的に論じた評論。記述問題の設問数は4問。解答欄の幅は設問ごとに違いが見られた。
- ・Ⅱ 東京で一人暮らしをしている主人公のもとに娘をつれて遊びに来た姉が出かけたまま帰ってこないため、主人公とその姉の娘が不安を募らせながら待っている場面を描いた小説。設問数は4問で、すべて傍線部に関する理由を問うものであった。解答欄の大きさは設問ごとに違いが見られた。

<本文分析>

大問番号	Ⅰ	Ⅱ
出典 (作者)	『幽玄とさびの美学』 (西村清和)	『夏物語』 (川上未映子)
頻出度合 ・的中等	なし	なし
分量 前年比較	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加	減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加
難易 前年比較	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化	易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅰ	評論	問一	記述式	標準	「対象の美的質」を「美的概念」を用いて述べようとすると「循環」してしまうことを説明する。(3.5cm 幅) 社会・文化が規定する「美的質」に関連して、対象それ自体がもつ「非美的な特徴」を説明する。(3.5cm 幅) 傍線を含む段落を踏まえ、西洋人が日本の美意識を理解できない「根拠」がないことを説明する。(2.8cm 幅) 「美的フレーミングの相対主義」の立場から、大西の議論が「受け入れがたい」ことを説明する。(4.2cm 幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	
Ⅱ	小説	問一	記述式	標準	傍線前後から読み取れる夏子的心情を踏まえ、繰り返し同じことを口にした理由を説明する。(2.8cm 幅) 傍線に至るまでの内容から緑子的心情を読み取り、傍線の緑子の行動の理由を説明する。(2.8cm 幅) 傍線の時点で「陰惨な言葉」を調べることに夏子と緑子が夢中であることを踏まえて説明する。(3.9cm 幅) 傍線に至るまでの夏子と緑子の言動や心情の推移を踏まえ、二人が驚いた理由を説明する。(3.9cm 幅)
		問二	記述式	標準	
		問三	記述式	標準	
		問四	記述式	標準	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・Ⅰの評論では、意味段落の論旨を正確に把握した上で全体の主題を捉えられるよう、文脈を的確に読み解き、論理的に正確な説明をする練習を積み重ねたい。念のため、漢字の書き取りも練習しておこう。
- ・Ⅱの小説では、人物の心情を叙述に基づいて正確に読み取り、わかりやすく表現する練習を着実に積み重ねる必要がある、そのためにも語彙を豊かなものにしておきたい。表現効果に関わる設問、作品の鍵となるものに関わる設問についても、解答の基本的な構成を習得しておきたい。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

- ・文学部の入試問題として歌論が出題されたのは過去十年で二例のみ。さらに年度をさかのぼっても出題例がなくめずらしい。なお、もう一題は2021年度(順徳院『八雲御抄』)。
- ・設問構成はほぼ例年どおり。例年の傾向である短語句の意味を問う設問は、前年度にひき続き今年度もなかった。
- ・例年よく出題される和歌の設問があった。今年度は現代語訳一題。
- ・例年よく出題される文章全体の主旨をふまえるような内容説明があった。

<本文分析>

大問番号	Ⅲ
出典 (作者)	『雲上歌訓』 (萩原宗固)
頻出度合 ・的中等	作品は稀。的中なし。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加) 約1100字 (昨年890字)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・ <b>やや難化</b> ・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅲ	歌論	問一	記述式	標準	現代語訳。訳出条件の指示なし。着眼点となる重要語句等は、「候ふ」「まじ」。また、重要語句ではないが、「紛らはす」の的確な訳出が要求され、国語力が問われる。他に、「事に」の助動詞「に」(断定)にも注意。
		問二	記述式	標準	現代語訳(和歌)。歌題をふまえての条件あり。着眼点となる重要語句等は、「忍ぶ」「かかれ」「とて」「けん」。
		問三	記述式	標準	内容説明。話題となる人物の行為を心情も含めて説明する。
		問四	記述式	難	内容説明。例示された和歌について、文脈に応じた作者の考えを説明する。「心より入りて」「心移れば」などの「心」の意味を理解する。
		問五	記述式	標準	内容説明。「聞ゆ」という言葉の意味をふまえた作者の和歌に対する考えを本文全体の主旨を視野に入れて説明する。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・重要古語や語法等の知識に習熟して、正確に現代語訳できる読解力を養うことが重要である。
- ・主語、目的語、指示内容などを考えながら、文章全体の展開や主旨を正確に理解する練習を平素から行うこと。
- ・現代語訳のみならず説明問題においても、文章全体の展開や主旨をふまえた記述力が要求されている。
- ・例年の傾向から、和歌について、修辞の指摘や説明問題をも意識した解釈の演習も必要である。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題・漢文 1題

試験時間

120分

春秋時代、齊の宰相であった晏嬰の言行を集めた『晏子春秋』からの出題。晏嬰が使者として楚の国に赴いた時に、楚の人が背の低い晏嬰に対して小さな門を作って馬鹿にしようとし、楚の王は齊には人材がおらず晏嬰のような者をよこしたのかと馬鹿にしようとするが、いずれも晏嬰の機知に富んだ返答で逆に恥をかかされるという話。内容は読み取りやすい。本文の字数は昨年より減少した。設問数は昨年と同じく5、枝問もないので解答数も5。現代語訳の問題が1問、内容説明の問題が3問、書き下し文の問題が1問である。昨年と比較すると、説明問題が減少した。書き下し文の問いでは、昨年度「現代仮名遣いでもよい」というただし書きがなかったが、本年度はある。

<本文分析>

大問番号	Ⅳ
出典 (作者)	戦国時代『晏子春秋』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">減少</span> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 (昨年) 183字→(今年)132字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">変化なし</span> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
Ⅳ	史伝	問一	記述式	やや難	内容説明の問題。文脈に沿って意味を考え、皮肉の内容を説明する。
		問二	記述式	標準	書き下し文の問題。再読文字「当(まさに〜べし)」と「従(より)」の読みと文の構造に注意して書き下す。
		問三	記述式	やや易	内容説明の問題。比喻の意味を説明する。
		問四	記述式	やや易	現代語訳の問題。「然則(しからばすなはち)」の内容を明らかにし、「何為(なんすれぞ)」の意味に注意して訳す。
		問五	記述式	標準	内容説明の問題。晏嬰の言葉の内容にそって、文意を考え、皮肉の内容を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

重要語句・慣用句や基本句形の知識に習熟し、比喻や具体例の提示などの修辞法にも慣れておく必要がある。本文を単に直訳するだけでなく、論の展開や筆者の意図を考えながら読む読解力が必要なので、問題集などを利用して読解の訓練を積んでおくこと。中国の歴史、思想、文化に関する知識も身につけておく必要がある。